



コモ ヴァイ  
**COMO VAI?**  
**口ザーネです**



(COMO VAI? = ポルトガル語で「ごきげんいかが?」)

第7回 ブラジルの中の日本語

梅雨の季節ですね

皆さん、ご機嫌いかがですか。雨の日が続いて外出ができないときには、どのようにお過ごしでしょうか。私は、図書館で借りてきた本を子どもたちと読むのが大好きです。日本の絵本や紙芝居は、子どもたちを引きつける楽しい絵が多くて、夢がありますね。

日系人社会と言葉

さて、今回はまず、ブラジルの日系人社会とそこで使われている言葉についてお話しします。

現在ブラジルでは、移民者である1世のほか、現地で生まれた子どもや孫、ひ孫の世代までの4世代が共に暮らしています。世代を重ねるごとに、だんだん日本語から離れていくのは仕方のないことですが、日系人社会の中では、一般に「コロニア語」(正式に学問的に定義されたものではありません。)と名づけられた新しい言語コミュニケーションが生まれ、世代間の掛け橋として活躍しています。

「さんの家はPONTE (=橋) を渡って2軒目ですよ!」とか、「うちの息子は、昨日NOVO (=新しい) の車を買いました。」「このDOCE (=甘いお菓子) はおいしいですよ。」といった具合です。いずれも、日本語を話す1世が2世たちに話すときによく使います。自分で身につけたポルトガル語を駆使して、新世代の人たちとコミュニケーションを持とうという気持ちがよく表れています。

私自身もコロニア(移住地)育ちで、1世の人たちと20年間共に生活してきたので、こうした言葉をよく耳にしたものです。

日本に住むブラジル人では

こうした現象は、不思議なことに日本でもみられます。在日ブラジル人が仲間同士で話しているとき、よく日本語の単語が混ざっています。「QUERO FAZER UM 保険NOVO (新しい保険証を作りたい)」とか、「ÁGORA ESTOU NO 市役所(今、市役所にいます)」あるいは、「VOU DE 電車(電車で行きます)」といった具合です。

このような会話を交わしながら、徐々に日本語が話せるようになっていただきたいと思います。

日本に生活するブラジル人は、日本人との交流を望んでいます。言葉の壁が厚すぎてなかなか思うようにはいきません。心の中では少し寂しいと感じているに違いありません。

ブラジルでの日本語の普及

1980年代には、ブラジル全体で日本語ブームが始まり、地方には日本語普及センターが整備されました。日系人社会にとっては貴重な出来事で、新世代の人々への日本語教育に非常に大きな影響を与えました。また、ブラジル人の生徒も徐々に増え、いろいろなタイプの教室が設けられました。中には幼稚園のクラスもでき、日系人だけではなく、非日系人の子どもたちもいっしょに日本語の勉強をしています。

日本政府の援助もあって、今でもブラジルでは日本語の普及が続いています。公立大学には日本語学科があり、大勢の学生が在籍しています。その中には日本に留学したり、研修に訪れたりする人たちもたくさんいます。彼らは、ブラジルに帰国後、学習した成果を両国のために役立てたいと願い、お互いの国の掛け橋になれる仕事につくことに誇りを感じているのです。

日本とブラジル。この両国は、私の心の中だけではなく、お互いに太い絆で結ばれているように思います。

(彦根市国際交流員 田尾口ザーネ)